

財務諸表の本質を ざっくり理解して みましよう！

「価値」に着目した財務諸表のしくみ

その2

税理士・中小企業診断士 高橋和宏

岐阜商工会議所専門家研究会（ぎふ専研）

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。

主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

前回「その1」では、ビジネスの原点は「物々交換」で、それは「価値と価値との等価交換」であり、経営の成績や状態を表している財務諸表は「価値」と深い関係があるとして、まず損益計算書をご説明しました。

今回は貸借対照表とキャッシュフロー計算書を「価値」に着目して説明します。

1 貸借対照表は「価値の姿の早見表」

貸借対照表は「資金の調達と運用を表示されているもの」と説明されても、多くの方にとって、なんだかよくわからないと言うのが本音ですね。

価値での見方から言うと、価値がどんな姿で会社に残っている、それは俺の物か？他人の物か？が書いてある「価値の姿の早見表」ということになります。貸借対照表の向かって左側を「資産の部」と言いますが、ここには会社に入ってきた価値がどんな姿で残っているかが記載されています。お金であるのか、売掛金であるのか、在庫であるのか、設備であるのかなどです。

右側には、その価値は誰のものか？が記載されていて、上の「負債の部」が「他人のもの」、下の「純資産の部」が「俺のもの」です。（図1）もちろん俺のものが多い方がよいですね。

図1

【貸借対照表】	
どんな姿？	誰の物？
【資産の部】 価値の姿 （例：現金預金、 売掛金、在庫、車両、 有価証券…）	【負債の部】 他人のもの
	【純資産（資本）の部】 俺のもの！！

2 キャッシュフロー計算書は「お金の増減表」

実はキャッシュフロー計算書は、価値には全く関係ありません。

また、キャッシュ（お金）フロー（流れ）だからお金の流れと勘違いしますが、「お金の増

減表」とした方がわかりやすいです。

キャッシュフロー計算書は、価値の中でも「お金」（現金預金）に姿を変えた物だけに注目して、その増減を表した表です。（図2）

この計算書がなぜ重要かというと、現金預金在最も確実な価値だからです。商品という価値はデッドストックになれば価値が減りますし、売掛金は回収できなければ価値はゼロとなってしまいます。

もうひとつ、現金預金はすぐ他の価値に変えることができる。すくく融通がきくものだからです。

ということ、最も確実な価値としての現金（キャッシュ）が近年の経営では重要視されていて、キャッシュフロー計算書が重要な財務諸表のひとつとされているのです。

3 利益とキャッシュフローの違い

最後に利益とキャッシュフローの違いを確認しましょう。損益計算書の利益は、貸借対照表では俺の価値の増加となるので、入ってきた俺の価値と出

図2

【キャッシュフロー計算書】・・・価値の内、現金預金だけに注目した増減表 現金預金の増減を3つの区分に分けて表示しています。	
営業活動	通常の商売で増減した現金預金
投資活動	設備などの購入、売却で増減した現金預金
財務活動	借入や返済、配当金支払い、増資等で増減した現金預金



税理士・中小企業診断士
高橋和宏氏

●プロフィール
タカハシ カズヒロ
税理士法人グッドパートナーズ会計事務所 代表
（税務に関する業務とともに、中小企業の成長、再生の支援を行っています。）